

HPVワクチンについて

保護者の立場から
子どもの医療のかかり方について
伝える活動をする立場から
情報提供について伝えたいこと

一般社団法人知ろう小児医療守ろう達の会
代表 阿真京子

父母にむけて子どもの病気を学ぶ講座を開催



小児科医から父母へ 「講座でお伝えしていること」

- 救急にかかるべきとき
※必要は時はすぐに救急へ
- 子どもの病気とその対処法（熱・咳・下痢・嘔吐）
※そして、家で様子を見てよい時を知る
- 予防接種について
- 地域の医療の現状

子どもが夜間、病気の時
落ち着いて親が家でみていられ
るようになることで、子どもも
親も先生も夜はゆっくり休む
ことができるように・・・



続けた活動・実績

活動年数 12年

講座開催 150回

受講者数 5000人



どの予防接種でも、伝える際におさえていただいていること

1. 病気そのものの説明
2. 効果
3. 副反応

心配をあたらず、また
批難するでもなく、事実を伝える

小中高生の保護者のニーズを受けて HPVワクチンについて

1. 8月 小児科医による勉強会
2. 9月 産婦人科医による勉強会
3. 10月 意見交換会



情報提供方法について

1. わかりやすいことはとても重要
2. けれども、わかりやすいだけでも、×
3. 病気について
4. ワクチンをすることのメリットと副反応

むやみに怖がらせず、けれども事實はきちんと伝える

情報提供方法について

「HPVワクチンについて、積極的に
おすすめることを一時的にやめて
います」

→かえって不安になった

→自治体や医療機関の対応



わかりやすく伝えるためのポイント

- 目的がわかりやすい
- 非難する気持ちが含まれていない
- 言葉がやさしい 難しい言葉を使っていない
- 分量が多すぎない
- 一文が長すぎず、簡潔である
- 一番知りたいことって・・・？

子どもやその親に広く届けられる必要があるのはもちろん、問い合わせで届く接種券に同封されていることで安心が得られます



情報をどこで得ているか

通常はあまり見ないけれど・・・

接種を希望する場合、現状、自治体への
問い合わせが必要

→市区町村のホームページ

→接種する医療機関のホームページ



もっと詳しく知りたい方に・・・

- 直接国のページに行く人は少ないけれど・・・

- リーフレットにQRコード
厚生労働省のページ



接種を望む人の声

- 市のホームページを見てかえって不安になったが、かかりつけ医に丁寧に説明してもらえたので、打ちました。
- 病院へ問い合わせをしたところ、接種できないと言われました。
- 子どもを産んだ産婦人科の先生が常に必要性を発信されていた。もともと信頼関係があったので、心配なく打ちました。高1の娘は、ほかのワクチンと何が違うの？と普通に打っていました。
- 報道が過熱していた時期に娘が高校生で接種を見合わせました。現在も交際経験はないため、接種を希望していますが、公費でないため値段が高すぎて打てません。
- 報道で聞いたAYA世代の死因の相当数を占めているというニュースがあり接種への関心を持っています。だが映像も記憶に鮮明に残っています。



接種を希望しない人の声

- 映像を見てまだ怖さが鮮明に残っていて、あの映像を払しょくすることができません。
- このところ打ったほうがよいのかと考えていたのだが、産婦人科の娘さんのHPV接種率が恐ろしく低いというネットニュースを見てまた心配が増しました。
- がんは怖いので、前向きに検討しようと思っても、副反応になる確率がほかのワクチンより高いのではと感じる。そういうニュースがよく出ています。
- 「子ども」のためを思い接種させたことで、万が一重篤な副反応が起きた場合の親の後悔を考えると、将来の癌のリスクよりいまの安全をとってしまう。



最後は親御さんの判断です

- 打たない選択も尊重
- 打たない人を責めない姿勢
(どのワクチンについても)



これからの課題

- 11月の報道でも・・・
- いま迷っている子達への啓発

